

お知らせ

記者発表資料 平成19年8月23日

提供先	島根県県政記者会 出雲市政記者クラブ 松江市政記者クラブ
-----	---------------------------------

「平成18年7月豪雨における 松江（大橋川）の水位シミュレーション」

昨年7月の洪水は、（平成18年7月16日～19日にかけて）山陰地方を中心に梅雨前線が停滞したことで、斐伊川本川では総雨量378mmとなり、昭和47年洪水（総雨量538mm）以来、34年ぶりの大雨となりました。この洪水で松江市街地が広範囲で2日間に渡り浸水し、松江市内で浸水戸数1,427戸の被害が生じました。

出雲河川事務所では、上流の尾原ダム・志津見ダム、中流の斐伊川放水路、下流の大橋川改修の、いわゆる「斐伊川治水の3点セット」に係わる事業が完成していた、と想定した場合の大橋川の水位を、詳細なモデルでシミュレーションしました。その結果、松江の水位を80cm下げの効果があると算定され、松江市街地への浸水被害をほとんど防ぐことができた、と考えられます。

また、上流の尾原ダム・志津見ダム、斐伊川放水路が完成していたと想定した場合は、松江の水位を52cm下げの効果があると考えられます。

詳細な計算モデルによる解析結果、および調査結果に基づくため、平成18年7月27日発表の速報値とは異なります。

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所

TEL 0853-21-1850

FAX 0853-25-0819

調査設計課長 水草 浩一（内線351）

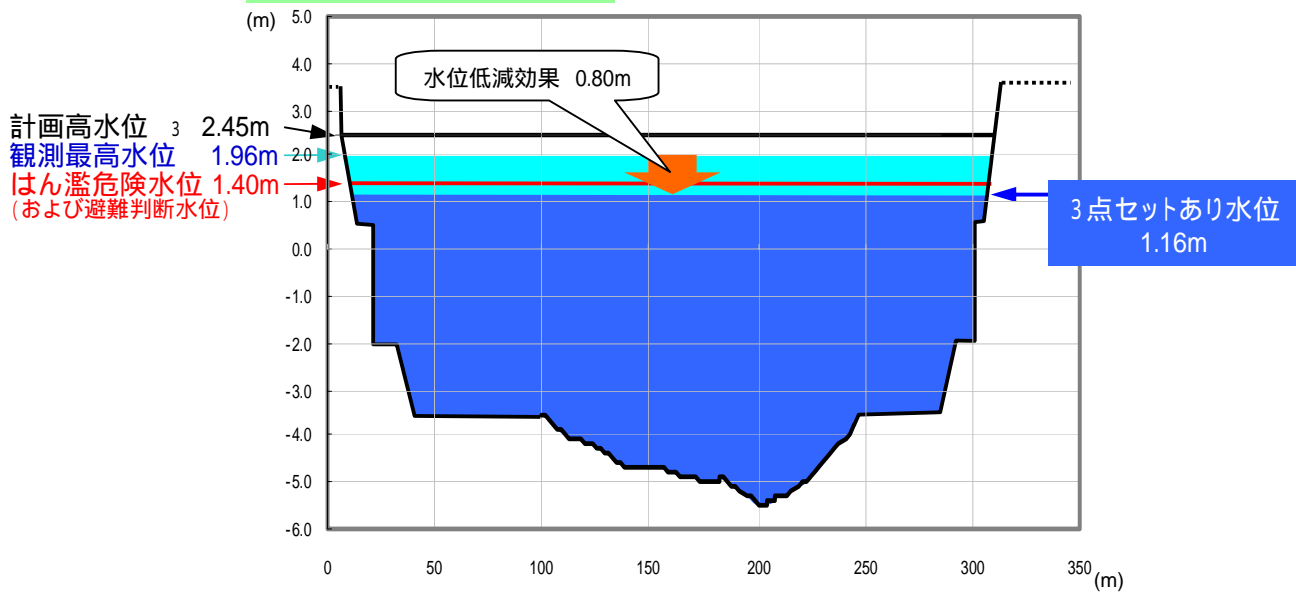
松江(大橋川) 水位観測所での治水対策後の想定水位

ポイント

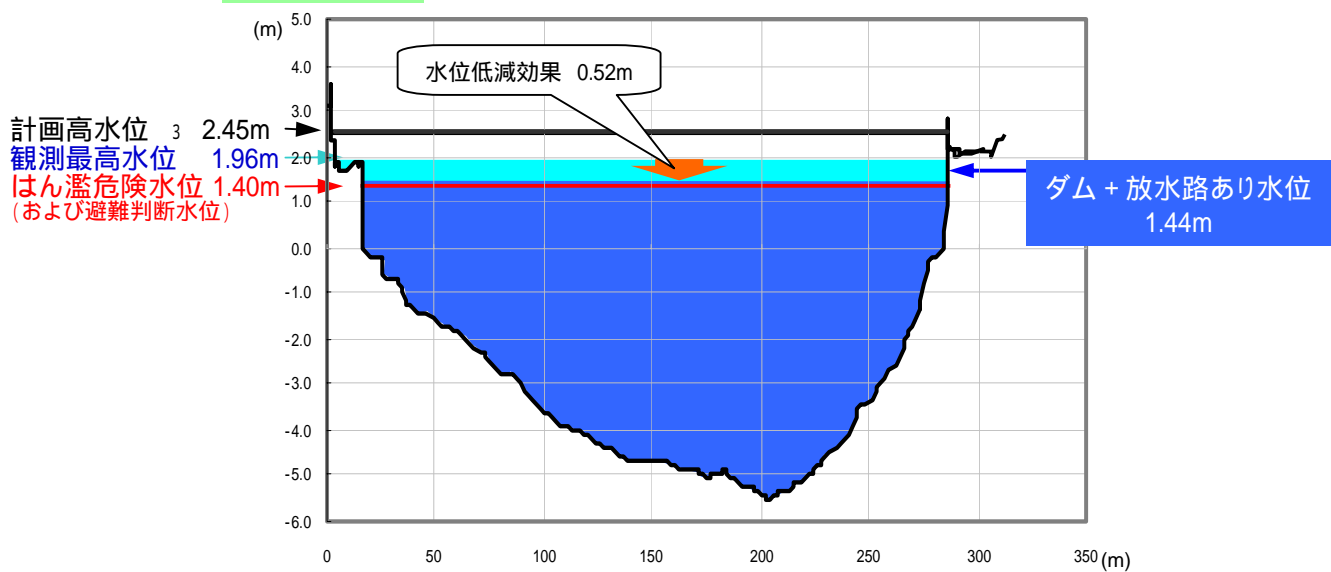
3点セット(上流のダム、中流の放水路、下流の大橋川改修)が完成していた場合は、松江で**1.16m**であったと算定されました。

上流のダム、中流の放水路だけが完成していた場合は、松江で**1.44m**であったと算定されました。今回の洪水では、はん濫危険水位(および避難判断水位)¹を4cm超過する程度のため、越水に起因する浸水²を抑制できたと考えられます。

ダム + 放水路 + 大橋川改修



ダム + 放水路



松江水位観測所付近の断面模式図

- 1 はん濫危険水位とは、氾濫の恐れが生じる水位、避難判断水位とは、住民の方々の避難等の目安となる水位です
- 2 内水に起因する浸水は、考慮していません
- 3 計画高水位とは、河川整備の計画上の水位です